

(様式1) 令和7年度 教職課程に係る自己点検・評価結果

1. 目的 本学の教育職員免許状を取得するための課程（以下「教職課程」という）に係る内部質保証を行うことを目的とする。
2. 実施体制 全学教職科目に関わる項目、もしくは大学全体として自己点検・評価したほうがよいと判断される項目については教職教育センターが実施するが、教職課程を有する各学部・研究科での実施が適切と判断される項目については、当該学部・研究科で実施するものとする。
3. 実施方法 「教職課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン」に記載の各評価項目について、3段階評価による自己点検・評価を実施する。
4. 評価の内訳 ○ 評価項目について、実施（適合）している
 △ 評価項目について、概ね実施（適合）している
 × 評価項目について、実施（適合）していない

評価項目		観点	評価対象	評価	特記事項及び改善事項	根拠
1. 教育理念・学修目標	1-1	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画	大学全体	○	教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画を設定し、教職教育センターHP 画面にて公開している。	教職教育センター運営要綱 教職教育センター会議資料 教職教育センター（HP 画面）
		●学生や採用権者の意見、所在する都道府県・政令指定都市教育委員会の策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか	大学全体	○	令和5年度岩手県立大学教職課程自己点検・評価報告書を踏まえ、岩手県の教員育成指標（「校長及び教員の資質の向上に関する指標」）との関係性を考慮した検討を行っている。	令和5年度岩手県立大学教職課程自己点検・評価報告書
		●一人一人の学生が教職課程での学修を通じて得た自らの学びの成果や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化などを踏まえた適切な見直しがおこなわれているか	大学全体	○	各教職科目について実施される（授業調査や授業担当者による自己点検票、及び令和5年度岩手県立大学教職課程自己評価・点検報告書等を踏まえ、見直しへ向けた検討を行っている。	IRセンター授業調査・自己点検票 令和5年度岩手県立大学教職課程自己点検・評価報告書
2. 授業科目・教職課程の編成及び実施	2-1	教育課程の体系的性	大学全体	○	複数の教職課程間における授業科目の共通開設は適切に行われている。	教職関連科目開講計画 シラバス（HP画面）
		●法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか、教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか	看護学部 看護学研究科 (養護教諭)	○	教育職員免許法及び関係法令に基づき、教員養成の目標を踏まえて体系的に編成している。教職に関する科目、教科に関する専門的事項及び教育実習等を段階的に配置し、それぞれの授業科目が役割を分担しながら教員として必要な資質・能力の育成を図っている。また、教職課程科目と学部専門科目との関連性を確保し、教科専門と教職専門の学修が有機的に結びつく教育課程としている。	履修の手引き シラバス（HP画面）
		ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学研究科 (高校情報、中・高数学)	○	必要な授業科目の担当者が異動した場合であっても、適切な研究領域の教員を雇用し、適切性を継続している。また、教職課程以外の科目との関連性も適切に確保している	履修の手引き シラバス（HP画面）	

2-2	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	●ICT環境や関連図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか	大学全体	○	ICT環境や関連図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されており、引き続き充実するように取り計らっている。	課程認定書類 シラバス
2-3	いわゆるキャップ制の設定状況	1単位あたりの学修時間を確保する上で有効に機能しているか	看護学部 看護学研究科 (養護教諭)	○	キャップ制により履修科目数が適切に調整されることで、各授業における予習・復習や課題への取り組み時間を確保することができている。ただし、教職科目は登録することができる単位数の上限に含まれていない。	履修規程 履修の手引き
			ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学研究科 (高校情報、中・高数学)	○	一部の科目群はキャップ制の制御下にあるが、キャップ制の外に設けられている科目も存在している	
2-4	教育課程の充実・見直しの状況	●学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	全学教職科目	△	全学教職科目（教育の基礎的理解に関する科目等の科目）の充実・見直しについては、個々の科目について実施される授業調査や自己点検票、及び令和5年度岩手県立大学教職課程自己評価・点検報告書を踏まえて検討している。また、現在検討が進められている中教審教員養成部会の議論も注視しているところである。	IRセンター授業調査・自己点検票 令和5年度岩手県立大学教職課程 自己点検・評価報告書
			看護学部 看護学研究科 (養護教諭)	○	学生による授業調査や教育実習校からの評価等を通して学修成果や課題を把握している。これらの結果は教職課程科目担当者において共有し、科目内容や科目間の接続、指導方法等について検討を行っている。検討結果を踏まえ、授業内容の充実や指導方法の改善を図り、教育課程の継続的な見直しと質の向上に努めている。	
			ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学研究科 (高校情報、中・高数学)	△	課程の充実・見直しについては、調査検討中であり、実施はされていない	
2-5	個々の授業の到達目標の設定状況とシラバスの作成状況	●学習指導要領や教職課程コアカリキュラムに対応する形で、個々の授業科目の目的や内容が設定されているか ●教員の養成の目標及び当該目標を設定するための計画と授業科目との関係、内容と方法、計画等がシラバスに明確に記載されているか	全学教職科目	△	全学教職科目（教育の基礎的理解に関する科目等の科目）は、学習指導要領や教職課程コアカリキュラムに対応して、目的や内容が設定され、シラバスが作成されている。その一方で、教員養成の目標等との関係の記載は必ずしも明確でない。	履修の手引き シラバス
			看護学部 看護学研究科 (養護教諭)	○	教職課程の各授業科目は、教職課程コアカリキュラム及び学習指導要領を踏まえ、教員養成の目標との関連を意識して目的及び内容を設定している。各科目では到達目標を明確に定め、それに基づいて授業内容を構成している。また、シラバスには授業の目的、到達目標、授業計画、授業方法、評価方法を明示し、学生が学修の見通しをもって主体的に学ぶことができるようにしている。	
			ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学研究科 (高校情報、中・高数学)	△	教科に関する専門的事項の科目のシラバスにおいては、教員養成の目標等との関係の記載が不明確である	
2-6	アクティブラーニングやICT	●授業科目の到達目標に応じ、アクティブラーニングやICTを活用した手法を導入し、	全学教職科目	○	全学教職科目（教育の基礎的理解に関する科目等の科目）において、アクティブラーニングやICT等を活用した、多様な学	シラバス

		C Tの活用など新たな手法の導入状況	多様な学びをもたらす工夫が行われているか			びをもたらす工夫が行われている。		
			看護学部 看護学研究科 (養護教諭)		○	各授業科目では、授業の到達目標や内容に応じて、ディスカッション、グループワーク、模擬授業、事例検討などのアクティブラーニングの手法を取り入れ、学生の主体的・協働的な学びを促進する工夫を行っている。		
			ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学研究科 (高校情報、中・高数学)		○	教科に関する専門的事項の科目においても、アクティブラーニングやICTを活用した手法を積極的に導入している		
2-7	個々の授業の見直し状況	●学修成果や自己点検・評価の結果などを踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	全学教職科目		○	学生による授業調査や自己点検票、及び令和5年度岩手県立大学教職課程自己点検・評価報告書を踏まえて、個々の授業の充実へ向けて適切な見直しが行われている	IRセンター授業調査・自己点検票 令和5年度岩手県立大学教職課程 自己点検・評価報告書	
			看護学部 看護学研究科 (養護教諭)		○	各授業科目においては、授業評価アンケートや授業後の振り返り等を踏まえ、授業内容や方法の改善に継続的に取り組んでいる。学生の理解状況や学修成果を確認しながら、教材の見直しや授業方法の工夫を行い、より効果的な学修が得られるよう授業の充実を図っている。		
			ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学研究科 (高校情報、中・高数学)		○	個々の授業において適切な見直しが行われている		
			大学全体		○	全学組織である教職教育センターの関与の下、教職実践演習や教育実習が行われている。		教職教育センター会議資料 シラバス
3. 学習成果の把握・可視化	3-1	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	●成績評価基準に基づく評価と授業科目ごとに定められている到達目標水準との関係等があきらかにされているか	大学全体		○	シラバスで明確化されている。	履修の手引き シラバス 授業調査
	3-2	教員の養成の目標の達成状況を明らかにするために情報の設定と達成状況	●教員の養成の目標の達成を明らかにするための情報が適切に設定されており、それがどの程度達成されているか ●教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか	看護学部 看護学研究科 (養護教諭)		○	教員の養成の目標の達成状況を把握するため、各授業科目における評価や養護実習での学修成果を通して学生の到達状況を確認している。また、「教育の基礎的理解に関する科目」や「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」においては履修カルテを活用し、学生の学修の進捗や課題について担当教員が確認する仕組みを設けている。一方、「養護に関する科目」においては、ポートフォリオを活用して学修の過程や成果を蓄積し、学生自身が学びを振り返る機会を設けている。これらの取組を通して、教職課程全体における学びの積み重ねを可視化し、教員として必要な資質・能力の形成状況を把握する体制を整えている。	
	ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学研究科 (高校情報、中・高数学)		△	教職実践演習の学部担当分については、履修カルテの活用について直接的な指示は行っていない				
3-3	成績評価の状況	●各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的・定性的に達成水準を明らかにし、点数や評語に反映することができているか	全学教職科目		○	シラバスや定期試験問題内で明確化されている。	シラバス 履修の手引き	
看護学部		○	各授業科目においては、到達目標に基づいた成績評価を行うこ					

			●公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか	看護学研究科 (看護教諭)		とを基本とし、試験、レポート、課題提出、授業への参加状況等を組み合わせて、学生の学修成果を定量的・定性的に把握するよう努めている。評価にあたっては、各授業科目の到達目標に照らして達成水準を確認し、その結果を点数に反映させている。また、公正で透明性の高い成績評価を行う観点から、評価方法や配点基準についてはシラバスで明示している。学生には授業開始時に評価方法を説明し、授業の進行に応じて課題や評価の観点を示すことで、学修の目標を意識した主体的な学びにつながるよう配慮している。これらの取組により、到達目標に基づく適切な成績評価の実施を図っている。	
				ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学研究科 (高校情報、中・高数学)	○	シラバスや定期試験問題内で明確化されている	
4. 職員組織の状況	4-1	教員配置の状況	●教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足しているか	大学全体	○	教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足している。	課程認定書類 教員の養成の状況についての情報の公表 (HP 画面)
	4-2	教員の業績等	●授業担当者がその授業科目を担当するにふさわしい研究業績を有しているか ●学校現場等での実務経験を有するものを専任教員あるいは外部講師として雇用し、学生の指導にあたっているか	大学全体	○	授業担当者への担当依頼の段階で、履歴書・教育研究業績書を提出してもらい、研究業績や実務経験等を確認している。学校現場での実務経験のある専任教員を各教職課程に配置している。	教育情報の公表 (HP 画面) 岩手県立大学研究者総覧
	4-3	職員の配置状況	●教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか	大学全体	○	教育支援室内に教職教育センターを置き、センターを担当する事務職員を複数配置している。	岩手県立大学事務組織
	4-4	FD・SDの実施状況	●教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身につけるためのFDやSDが実施されているか	大学全体	△	部局ごと、もしくは全学単位で、教育や学生支援などにかかわるFD・SDが実施されているが、教職課程全体としての実施については検討段階である。	
	4-5	授業評価アンケートの実施状況	●個々の授業科目の見直しにつながる効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか	大学全体	○	個々の科目について授業調査を実施し、これに対する自己点検票への記載を全学的に実施している。	IRセンター授業調査・自己点検票
5. 情報公表の状況	5-1	学校教育施行規則 (昭和22年文部省令第11号) 第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況等	●法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行われているか ●大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できているか ●根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表することができるか	大学全体	△	法令に定められた情報公表が本学HPにて行われている。必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかについては、進級時に実施される「学びの振り返り」、4年次に実施される「必要な資質能力についての自己評価」を実施している。現状としては前者のデータを教職担当教員で共有することとどまっており、今後はこれらのより一層の活用を検討する必要がある。また、自己点検・評価にあたっては、根拠資料等を明示している。	教育情報の公表 (HP 画面) 教職教育センター (HP 画面) 教職教育センター会議資料
6. 教職指導 (学生の受け入れ・学生支援)	6-1	教職課程を履修する学生の確保に向けた取り組みの状況	●教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができているか	大学全体	○	1年次新入生ガイダンスや教職入門ガイダンスにて、教職課程のみならず、教員採用試験、職業としての教師など、卒業後も見据えた情報提供を行っている。各学部の履修の手引きでも教職課程についての説明を充実させており、LMSでも適時性のある情報提供を行っている。さらに、教職学修室を設置し、教職や教員採用試験など教職課程に関する書籍や資料を豊富に配	新入生ガイダンス資料 教職入門ガイダンス資料 看護学部・履修のてびき ソフトウェア情報学部・履修の手引き

					置して、情報提供している。また、教職担当教員が学生からの履修相談に乗っている。	
			看護学部 看護学研究科 (養護教諭)	○	教職課程の履修希望者に対しては、1年次に実施する全学的な教職ガイダンスにおいて、教職課程の目的や履修方法、免許取得までの流れ等について説明を行い、内容を理解したうえで履修登録を行う体制を整えている。学部においても、ガイダンスに加えて個別面談を実施し、履修継続に必要な単位修得状況の確認を行うとともに、履修上の疑問や進路に関する相談に対応している。 養護教諭一種免許状の取得を希望する学生は、入学時点で教職志向を明確にしている場合が多く、1年次から計画的に履修を開始することが特徴である。そのため履修者数は年度途中で大きく増減することは少ないが、個別面談等を通して学修状況を把握し、履修継続に向けた助言を行う体制を整えている。これらの取組により、教職課程に関する適切な情報提供と履修支援を行い、教職を志す学生の学びを継続的に支えている。	
			ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学研究科 (高校情報、中・高数学)	○	各種ガイダンスやLMS(WebClass, Google Classroom)を通じて積極的な情報の提供が行われている	
6-2	学生に対する履修指導の実施状況	●教職課程の履修にあたって学修意欲を喚起するような適切な指導(履修カルテの活用含む)が行えているか。	大学全体	△	1年次教職入門ガイダンスにて、学校教育の意義や教師の役割、職業としての教職などについて講話を行い、また、教職担当教員が履修相談等に乗ったり、LMSを用いた適時性のある情報提供を行うなど、教職課程の履修に向けた学修意欲を喚起するようにしている。履修カルテについては、それに基づいた個別面談を4年次に実施している。学修意欲の喚起に向けた履修カルテのより一層の活用が今後の課題である。	教職入門ガイダンス資料 教職実践演習授業計画 教職教育センター会議資料
			看護学部 看護学研究科 (養護教諭)	○	教職課程の履修にあたっては、1年次に実施される全学的な教職ガイダンスにおいて、教職課程の目的や履修方法、免許取得までの流れを説明し、学生が教職への理解と学修意欲を高めたうえで履修を開始できるよう指導を行っている。 学部においてもガイダンスを実施するとともに、履修状況の確認を目的とした個別面談を行い、必要単位の修得状況の確認や履修上の相談に対応するなど、学生の学修継続を支援している。また、「教育の基礎的理解に関する科目」等においては履修カルテを活用し、学生自身が学びの到達状況を確認できる仕組みを整えている。養護に関する専門科目においては、学修の積み重ねを可視化するためにポートフォリオを活用し、実習や授業を通じた学びを振り返りながら自己課題を明確にする取組を行っている。これらの取組により、学生が主体的に学修を進め、教職への意欲を維持しながら履修を継続できるよう支援している。	
			ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学研究科 (高校情報、中・高数学)	△	各種ガイダンスやLMS(WebClass, Google Classroom)を通じて学修意欲を喚起するような適切な指導をおこなっている。ただし、研究科及び学部としては履修カルテの活用は十分な状況とは言えない	

	6-3	学生に対する進路指導の実施状況	●学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか	大学全体	○	1年次教職入門ガイダンスで教職についての講話、2・3年次に教員採用試験説明会を実施している。また、教職担当教員だけでなく、本学キャリアセンターでも、教職志望者に対する進路相談・キャリア支援を実施している。教員採用試験対策では学内・学外の教員の実務経験者に指導していただいている。	教職入門ガイダンス資料 教職教育センター会議資料 キャリアガイダンス
7. 関係機関等との連携	7-1	教育委員会や各学校との連携・交流の状況	●教育委員会等と適切に連携・交流を図り、教育課程の充実や学生への指導の充実につなげることができているか	大学全体	○	4年教育実習事前指導、及び1年教職入門ガイダンスに岩手県教育委員会より講師派遣していただき、教職課程の充実や学生への指導の一翼を担っていただいている。	教育実習 I (事前指導) 教職教育センター会議資料 教職実践演習授業計画
	7-2	教育実習を実施する学校との連携・協力の状況	●教育実習を実施する学校と適切に連携・協力をはかり、実習の適切な実施につなげることができているか ●学校体験活動や学修指導因としての活動など、学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか	大学全体	○	「教育実習の手引き」を実習校に配布するとともに、何かあった場合に密に連絡が取れる体制を整えている。また、教育実習事前指導のなかで、盛岡北高校への学校訪問・見学を実施している。また、岩手県のスクールトライアル事業、滝沢市のラーニングサポーター事業に学生を派遣するなど、学校現場を体験する機会を多彩に提供している。	教育実習事前指導 教育実習の手引き 学校訪問課題レポート 教職教育センター会議資料
	7-3	学外の多様な人材の活用状況	●学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用できているか	大学全体	○	7-1に記載した以外に、教職実践演習や介護等体験事前指導に、実務経験のある教員や人材にゲストスピーカーをお願いし、また、一部の全学教職科目のなかで学外の専門家に講話依頼を行った。	教育実習 I (事前指導) 介護等体験事前指導 教職実践演習授業計画 教育相談論授業計画